

select nippon

静岡県沼津市は精密ネジ製造が地場産業の一つ。七十年の歴史があり、ネジの軍需工場からは多くの企業が枝分かれした。その中小メーカーに変化の波がみえる。自動車用に依存してきた事業の構造改革だ。

有力ネジメーカー、東海部品工業(沼津市)は矢継ぎ早に新分野を開拓してい

景気ウォッチ

る。一九九九年、ハードディスク駆動装置向けなど微小な「マイクロネジ」に進出。二〇〇四年には人工歯根、骨接ぎ用など医療用ネジの生産も始めた。

とりわけ医療用は主力の自動車部品用比べても品質や規格への要求が厳しい未知の分野。チタンなどを使った新しい材料を採用し、従来の鍛造と違つて切削

静岡で「第2の創業」相次ぐ

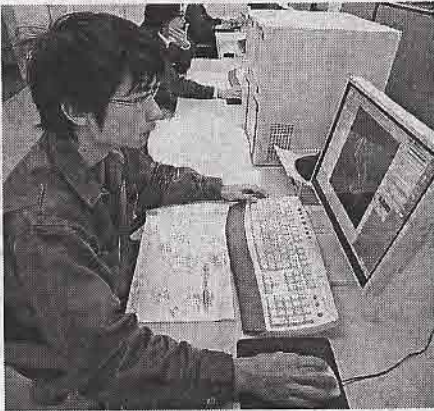
加工用の新設備も導入し、今年で創業六十年になる東海部品にとつて「第二の創業」といえる。

自動車産業は国際競争が激化、すそ野の中小企業は納入先からの圧力が一段と強まっている。「不良ゼロ」は今や当たり前。製品値下げや納期短縮の要求は緩む見通しがない。コスト増の要因がいくつもある。

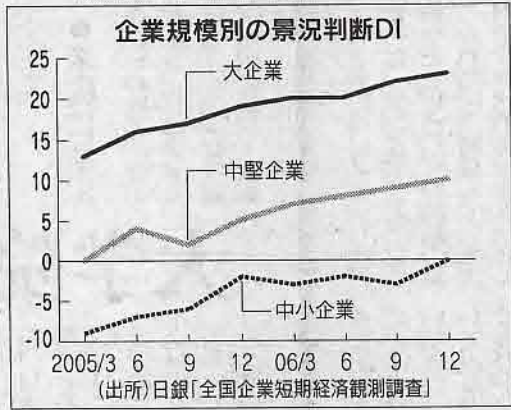
「自動車は軽量化がさらに進む。ネジ事業もそれに合わせる。景況判断DIは「良い」と答えた企業は増加傾向にあり、景気回復

から「悪い」とした企業の割合を引いた業況判断指数(DI)は中小企業(資本金二千万元以上、一億円未満)を上回らず、プラス二と対照的だ。

大手企業はM&A(企業合併・買収)で規模拡大を加速、仕入れなどの取引をより有利にしつつある。中小企業の立場はさらに弱まる方向にあり、景気回復



三次元CADで精密部品を設計する(静岡県岡部町の宮川工業)



ネジ技術で拓く 医療・電子部品

の実感がない調査結果にもそれが表れている。中小企業の事業革新は自動車分野に限らない。「も

のづくり県」といわれる静岡県ではさまざまな業種で中小の「第二の創業」が広がっている。

空調機器の部品メーカー、宮川工業(岡部町)は三次元CAD(コンピューターによる設計)や金型技術を生かし、携帯電話、デジタルカメラ用などの精密部品の試作事業に進出。デジタル機器メーカーは調達先を臨機応変に変え、新事業は「継続取引が難しい面はあるが、利益率は高い」(宮川高明社長)ためだ。

センサーなどの部品販売が主力の特電(沼津市)はロボットを使った生産システムの設計を始めた。顧客の生産ラインに合わせてソフトを開発、ロボット、制御盤などから成るシステムを組む。専任の技術者らが

工場現場に向いて円滑な稼働を支援。大手メーカーの海外工場からの受注も相次いでいる。

団塊の世代の大量定年退職で製造業は労働力不足が心配されており、ロボットによる省人化システムは需要増が見込める。システム構築事業は今では生産管理などで、売上高に占める比率は三割。ロボットシステムを柱に「〇八年度には五分に引き上げる」(中島萌専務)という。

二〇〇六年版中小企業白書は法人企業統計などをもとに、債務、設備、雇用の「三つの過剰」が「緩やかに

ながら克服されつつある」とした。だが「過剰」から

の脱出は反転攻勢への地ならしにすぎない。地域経済の本格回復は、中小の経営者

がリスクをとって企業を変革する姿勢に転じるかどうかにかかっている。

(静岡支局長 水野裕司)